

(2) 2歳児

2歳児 活動事例1

サーキット遊びをしよう(10月)

観点(生活)

視点(健康 へげんきいっぱい 運動)

【遊びの経過】

かけっこやジャングルジムを使った遊びなど、戸外で体を動かす遊びを楽しむようになってきた。また、今まではあきらめていたような遊具に何度も挑戦するなど、いろいろな体の動きが見られるようになってきた。

【ねらい】

いろいろな遊具に挑戦しながら、体を多様に動かすことを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

○平均台の一本橋を渡って遊ぶ。



手を伸ばすとこわくないよ。
【積み重ね】
【自信】
【多様な動き】

わたしもやってみよう。
【意欲】【チャレンジ】

★遊戯室の安全を事前に確認しておく。

- いろいろな動きが試せるように、サーキットの遊び方を伝える。
- 安心して挑戦できるように、危険なところは保育者が近くで見守る。
- 自分もやってみようとする意欲につながるよう、友達の動きがよく見える位置で並んで待つように声をかける。

○鉄棒にぶら下がり、10数えて交代して遊ぶ。



ぼくもしたい。
【チャレンジ】
【多様な動き】

見て、見て。
【喜び】【満足感】

- 手が届かない子どもや、しっかりと自分の力でぶら下がりにくい子どもには補助を行い、体を動かすことを楽しめるようにする。
- 子どもたちの意欲や、友達の姿を見て挑戦しようとする気持ちを受け止める。

○はしご渡りをして遊ぶ。



やったあ、渡れたよ。
【達成感】【自信】

こんなふうに足を動かすといいな。
【達成感】
【多様な動き】

- ★多様な動きを引き出すために、サーキットの遊具を少しずつ変化させたり加えたりする。
- ★はしごの下にはマットを敷いておく。

- できるようになったことを認めたりほめたりすることで、自信をもち、楽しんで体を動かせるようにする。
- 保育者もはしご渡りをしながらモデルとなり、一緒に体を動かすことを楽しむ。

【評価】

・友達の姿をまねたり、自分からいろいろな動きに挑戦したりしながら、体を多様に動かしている。

2歳児 活動事例2

衣服の始末の仕方を身につけよう（6月）

観点（生活）

視点（生活習慣 へみにつけようへ）

【遊びの経過】

プール遊びが始まり、衣服を着脱する機会が増え、進んで取り組んでいた。困った時には保育者に伝え、手伝ってもらいながら、自分で着脱しようとする姿が見られるようになってきた。

【ねらい】

衣服の始末の仕方がわかり、自分でやってみようとする。

○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助

○服を脱いで水着に着替える。脱ぎにくい時は、保育者に手伝ってもらおう。

ボタンがはずれない。でも、やってみよう。
【チャレンジ】

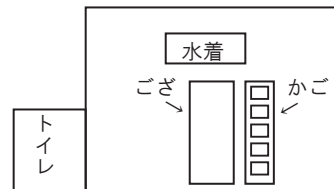


汗でくっついて、脱ぎにくいなあ。
【気付き】

自分でやってみる。
【意欲】

★着脱しやすいように、動線を考えて配置する。

★脱いだ服は、自分のかごに入れるようにする。



○自分で服を脱いだりたたんだりしようとする。



裏返すのは難しいけど、やってみよう。
【チャレンジ】

次はこうかな。
【見通し】

♪みぎのて、ひだりのて♪
【楽しさ】

■袖の脱ぎ方を伝えながら、難しそうなところは援助する。

■たたむ順序がわかりやすいように、「たたみ方の歌」を歌い、片袖ずつ順にたためるようにする。

■自分でやろうとしている姿を認める。

■次も自分でやってみようという気持ちにつながるように、自分でできた喜びに共感したりほめたりする。

○うまくたためたことを保育者に知らせたり、まわりの友達に見せたりして喜ぶ。



見て、見て。きれいにたためたよ。
【達成感】

★片付ける場所がよくわかるように、かごの置き場所を一定にする。

○服に着替え、かごを片付ける。

あそこに置くんだな。
【理解】



ほくも持っていこう。
【意欲】

■かごをしまい忘れていた場合は、自分で気付けるように、「どこに片付けようかな。」と声をかける。

【評価】

・保育者に見守られ、自分で衣服をたたんだり、難しいところは手伝ってもらったりしながら、衣服の始末を自分でしようとしている。

2歳児 活動事例3

草むらで見つけたよ（10月）

観点（ 人とのかかわり ） 視点（ 自己発揮 〜みて、きいて〜 ）

【遊びの経過】

虫探しでは、「バッタだ。」「ここにいた。」などの言葉が多く聞かれた。周辺散策に出かけて自然体験をしていくなかで、自分で見つけて喜んでいる姿から、徐々に保育者や友達に思いを伝えようとする姿に変わってきた。

【ねらい】

草むらで発見したことや感じたことを、保育者や友達に言葉で伝えようとする。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

○保育所周辺の田んぼに出かける。

一緒に
行こう。
【楽しさ】



てんとう
虫はいな
いかなあ。
【期待】

バッタをい
っぱい見つ
けたいな。
【意欲】

★事前に下見をして、危険な場所を確認しておく。
★見つけることを楽しみにして出かけられるように、一人一人に容器を用意する。

■興味膨らむように、出かける場所や見つけたいもの話をして、子どもたちの言葉を引き出す。

○草むらに静かに入っていく。隠れている虫を見つけてつかまえたり、草花を摘んだりする。

わあ、バッタだ。
びっくりした。
【驚き】

この花きれいだな。
【感動】



まてまて。
【集中】

先生、一緒にオオバコ相撲をしよう。
【意欲】 【楽しさ】

■虫や草花を発見した喜びや感動が共に味わえるように、一緒に探していく。

■感じたことや気持ちを受けとめ、認められているという安心感のなかで、一人一人のつぶやきに共感していく。

■興味・関心が広がるように、他の自然物や遊び方を知らせる。

ぼくもつかまえない。
【意欲】

見て見て、つかまえた。
【達成感】
【人とのかかわり】

○見つけたものを見せ合ったり、感じたことを言い合ったりする。

バッタだよ。
【人とのかかわり】

これなあに。
【興味・関心】



1匹入れてあげようか。きつく持ったらだめだよ。
【人とのかかわり】

■自分なりの言葉で友達と会話を楽しんでいる姿を見守る。

■思いをうまく伝えられず困っている時には、気付きや思いに共感し、仲立ちをする。

■虫の触り方、色や大きさの違いに気付けるように、見せ合ったり比べたりする場をもつ。

バッタの色がちがうなあ。
【発見】

こっちの方がちっちゃいな。
【気付き】

【評価】

・保育者や友達に、草むらでの発見や驚き、喜びなどを、自分なりの言葉で伝えようとしている。

2歳児 活動事例4

色水遊びをしよう（7月）

観点（ 興味・関心 ）

視点（ 意欲 〜おもしろそうだな〜 ）

【遊びの経過】

夏ならではの水遊びやボディペインティング、かたくりスライムなどの遊びを、開放感を味わいながら楽しんできた。そのなかで少しずつ色に興味をもち、生活や遊びのなかで色の名前を使うようになってきた。

【ねらい】

色に興味をもち、容器に入れたり移したりしながら色水遊びを楽しむ。

○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助

○水に絵の具が混ざり、色水ができる様子を見る。

何だろう。

【興味・関心】
【不思議】

あっ、赤だ。

【発見】

知っている色だ。

【自信】



わあ、きれい。

【喜び】【期待】

- 色水遊びへの興味・関心が高まるように、水の入ったペットボトルに絵の具を少し混ぜ、色水ができていく様子を見せる。
- 色への興味・関心がさらに広がるように、遊びのなかで色の名前を伝える。
- 子どもたちのつぶやきを受け止め、繰り返し言葉にしながらか子どもの発見に共感する。
- 遊びのイメージがもてるように、できた色水を容器に移す様子を見せる。

○好きな色や容器を選んで、色水を入れたり移したりして遊ぶ。

入るかな。

【チャレンジ】
【集中】

なくなっちゃった。黄色、ちょうだい。

【意欲】【欲求】



こぼしても、へっちゃら。

【夢中】【没頭】
【集中】

- ★いろいろな形や大きさの容器を準備する。
- ★混色しても濁りにくい色を選んで準備する。



よし、混ぜてみよう。どうなるかな。

【探究心】【期待】

色が変わった。

【驚き】【発見】

- 安心して遊びに集中できるように、「こぼれてもいいよ。」「大丈夫だよ。」などの言葉をかけ、繰り返し楽しんでいる姿を見守る。
- 遊びが広がるように、子どもたちの発見や驚きに共感するとともに、まわりの子どもたちに伝える。
- 見立て遊びやごっこ遊びが見られた時には、遊びが発展するように、子どもの色に対するイメージを受け止め、「ぶどうジュースください。」などの声をかける。
- 子どもたち自らが楽しんだり工夫したりできるように、色や容器の形、大きさ、量などいろいろな違いや変化に気付けるような声をかける。

【評価】

- ・好きな色や容器を選び、色水を入れたり移したりすることを楽しんでいる。